

## ベジフル SAGA 7月分栽培管理原稿

ハウスブドウは収穫・出荷時期で忙しくなりますが、自家選別を徹底し、枝梗枯れ・脱粒等には十分注意してください。

トンネル・露地ブドウでは、水回り期から着色期となりますので、適正着果量や受光態勢の見直しを行い品質向上に努めましょう。

梅雨明け後は気温が急激に上昇しますので、体調管理には十分気を付けて管理作業を行ってください。

### 巨峰

#### 【ハウスブドウ】

##### ○収穫前の管理

梅雨期は降雨によって湿度が高くなり、裂果や病害の発生が懸念されますので、換気を行うなどハウス内の湿度の調整を行います。

収穫前には果実分析や食味を確認し、出荷基準を遵守しましょう。収穫は早朝収穫を基本とし、パック・袋詰めについては涼しい場所で行い、果粉（ブルーム）が落ちないように果実の取り扱いには十分注意してください。

##### ○収穫後の管理

収穫は今年度の果実生産のゴールと同時に、次年度に向けてのスタートとなります。次年度の貯蔵養分確保のために、収穫後も葉数を確保し枝の充実を図りましょう。収穫後は樹勢回復のため十分なかん水を行い、早期落葉を防止するためにべと病や褐斑病等の防除を行ってください。安定した果実生産のために、収穫後も継続して管理を行いましょう。

##### ○かん水

収穫後の土壌の過乾燥は、秋根の伸長抑制や肥料の吸収阻害など悪影響を及ぼします。1週間以上降雨がなく土壌が乾燥している場合は、かん水を十分に行います。

##### ○礼肥

収穫後の樹勢回復に向けて、収穫直後に年間施肥量の20%を目安に速効性肥料で施用してください。樹勢が強く遅伸びしている樹は、樹勢に合わせて施肥量を抑えてください。苦土欠乏症対策としては、硫マグを10a当たり10~20kg施用します。施用後はかん水を行い、根域への浸透を図り吸収を促進させましょう。

##### ○土づくり

傾斜園や畝立て園では客土（ピートモス等土壌改良剤混入）により根の防護を行い、平植え園では完熟堆肥のスポット施用（2t/10a）で新根発生の促進を図ってください。

## 【トンネル・露地】

### ○適正着果量の確認

着果過多の樹では確実に果粒肥大不足・着色不良に繋がります。着果が多い園では水回り期に入ってから、10a当たりで約4000～5000房（350g程度、樹勢に合わせて調整する）となるように着果量を調整してください。

### ○新梢管理

硬核期（満開後30～50日）に枝抜き等の新梢管理を行うと、縮果症の発生を助長します。新梢管理は水回り期に入ってから行いましょう。7月に入っても伸長が旺盛な枝は、展葉15～20枚で摘心し、整理します。

棚下が暗く受光態勢が悪い場合は、混み合っている枝を棚下に下げるか、枝抜きや誘引を行い、葉や房に光が当たるよう整理しましょう。摘心後も発生する副梢については、1～2葉残して切り返してください。

### ○葉面散布

品質向上のため、窒素含量が少なくリン、カリ主体で微量元素を含む資材（ハイタック294等）を使用します。

1回目：着色初期（満開後50日頃）

2回目：1回目より7～10日後

### ○梅雨時期の対策

集中的な降雨が続くと、裂果や品質低下等が懸念されます。排水が不十分な園は、溝切り等で排水対策を徹底します。梅雨明け後、乾燥しやすい園では敷きわら等により急激な乾燥を防ぐようにしてください。

### ○病虫害防除

この時期は、べと病が発生しやすい時期です。袋掛け後はボルドー液を7～10日間隔で防除してください。なお、雨が多い場合は薬剤散布後の累積雨量が200mmに達した時点で次の防除を行います。

また、収穫期が近くなりますので、農薬の適正使用に努めて下さい。

〈袋掛け後〉

◇チャノキイロアザミウマ・べと病

・コルト果粒水和剤（3000倍）＋レーバスフロアブル（2000倍）

〈梅雨期～梅雨明け後〉

◇べと病

・ICボルドー66D（50倍）又はムッシュボルドーDF（500倍）加用クレフノン（100倍）

＋（展着剤）アピオンE（1000倍）

※使用する薬剤は地区によって異なる場合がありますので、詳しくは最寄りの JA や農業振興センターへご相談ください。また、散布前に登録内容や注意事項をご確認ください。

## シャインマスカット

### 【ハウスブドウ】

#### ○収穫適期の判断

シャインマスカットは黄緑色系品種のため、着色のみでは収穫時期の判断が難しい品種です。専用のカラーチャート板を使用し、収穫適期の判断を行きましょう。

ただし、外観だけでは判断が難しい場合もありますので、果汁分析も行い、糖度 18 度以上に達したのから収穫し、品質重視の収穫・出荷を心がけましょう。

#### ○収穫後の管理

昨年秋季の高温乾燥によってかん水不足の園では、正常な花穂が少なく、芽の動きだしが悪くなる症状が確認されました。前述の巨峰と同様に、次年度の貯蔵養分を確保するため、収穫後もかん水を十分に行い、遅伸びした副梢は貯蔵養分を貯えることの妨げとなるため、適宜摘心を行ってください。

#### ○施肥

収穫後の樹勢回復に向けて礼肥を行います。収穫直後に年間施肥量の 20% を目安に速効性肥料で施用してください。樹勢が強く副梢の遅伸びがみられる樹などは施肥量を減らしてください。

### 【トンネル・露地】

#### ○袋掛け終了後の管理

シャインマスカットは巨峰等の他の品種と比べて、土壌の乾燥の影響が大きい品種です。やや湿った状態 (pF1.8) を維持するため、週 2~3 回を目安に、収穫後までこまめなかん水を行ってください。

樹勢の強い樹では収穫直前まで副梢の発生、伸長がみられます。放っておくと養分が浪費され受光態勢も悪化し、負け粒の発生や糖度上昇の妨げとなります。こまめに摘心を行い、棚面を明るく保ちましょう。